ハウディ・クローバーホンSⅢ電話機

取扱説明書

技術基準適合認定品

このたびは、ハウディ・クローバーホンSⅢ電話機をお買上げいただきましてまことにありがとうございます。
本品をご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

もくじ

ハウディ・クローバーホンSⅢ電話機の主な特長

- ボタン2つで相手の番号をダイヤルすることができる短縮ダイヤル機能（10カ所）付です。（➡10ページ）
- ワンタッチで相手の番号をダイヤルすることができるワンタッチダイヤル機能（3カ所）付です。（➡9ページ）
- 最後にかけた相手にボタン1つでダイヤルできる再ダイヤル機能付です。（➡8ページ）
- ハンドセットを置いたままダイヤルできるオンフックダイヤル機能付です。（➡7ページ）
- 受話音量を2段階に切り替えられます。（➡8ページ）
- ハウディ・クローバーホンSⅢどうしを親子電話（ブランチ接続）でお使いの場合に、それぞれの電話機を「ピピピッ、ピピピッ、ピピピッ」という呼出音で呼び出すことができるブランチベル機能付です。（➡15ページ）
- ダイヤルボタンをはじめ、いろいろな機能ボタンを押したときには「ピッ」という確認音が出ます。（キータッチトーン）

ご使用になる前に

ご使用に際しては、添付の「端末設備接続(変更)請求書」へ必要事項をご記入のうえ、郵送または最寄りのＮＴＴ窓口へご持参ください。

セットを確認してください

次のものがそろっているか確かめてください。不足しているものがあったり、取扱説明書に落丁があった場合には、最寄りのＮＴＴ窓口等へご相談ください。

①ハンドセット	②ハンドセットコード	③電話機本体
④電話機コード(3m)	⑤単４乾電池(２本)	⑥短縮ダイヤルシール(２枚)
⑦短縮ダイヤルカバー	⑧壁掛用スペーサー	⑨壁掛用ネジ(２本)
⑩端末設備接続(変更)請求書	⑪取扱説明書	⑫保証書

ご使用上の注意

●DP/PB切替スイッチの設定について

●電話回線がダイヤル式、プッシュ式どちらでも使えるように、DP（ダイヤル式）／PB（プッシュ式）の切替用スイッチ（機能設定スイッチ）が電話機裏面にあります。ご使用になる前に、ご利用の電話回線に合わせて設定してください。（➡6ページ）
※電話回線の種類が不明な場合は、最寄りのNTT窓口へお問い合わせください。

●お話し中にコード類を抜かないで

●モジュラ式ですので、電話機用ローゼット間での移動ができますが、お話し中や保留中にローゼットからコードを抜くと電話が切れてしまいます。

●ぬれた手でさわらないで

●ぬれた手で電話機を操作しないでください。
●水をかけないでください。

●落としたり、強い衝撃を与えないで

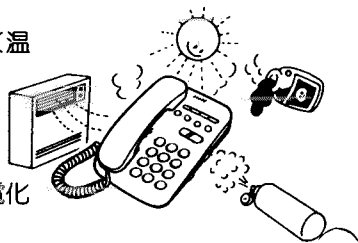
●電話機は落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

●分解しないで

●電話機は決して分解したり、改造したりしないでください。

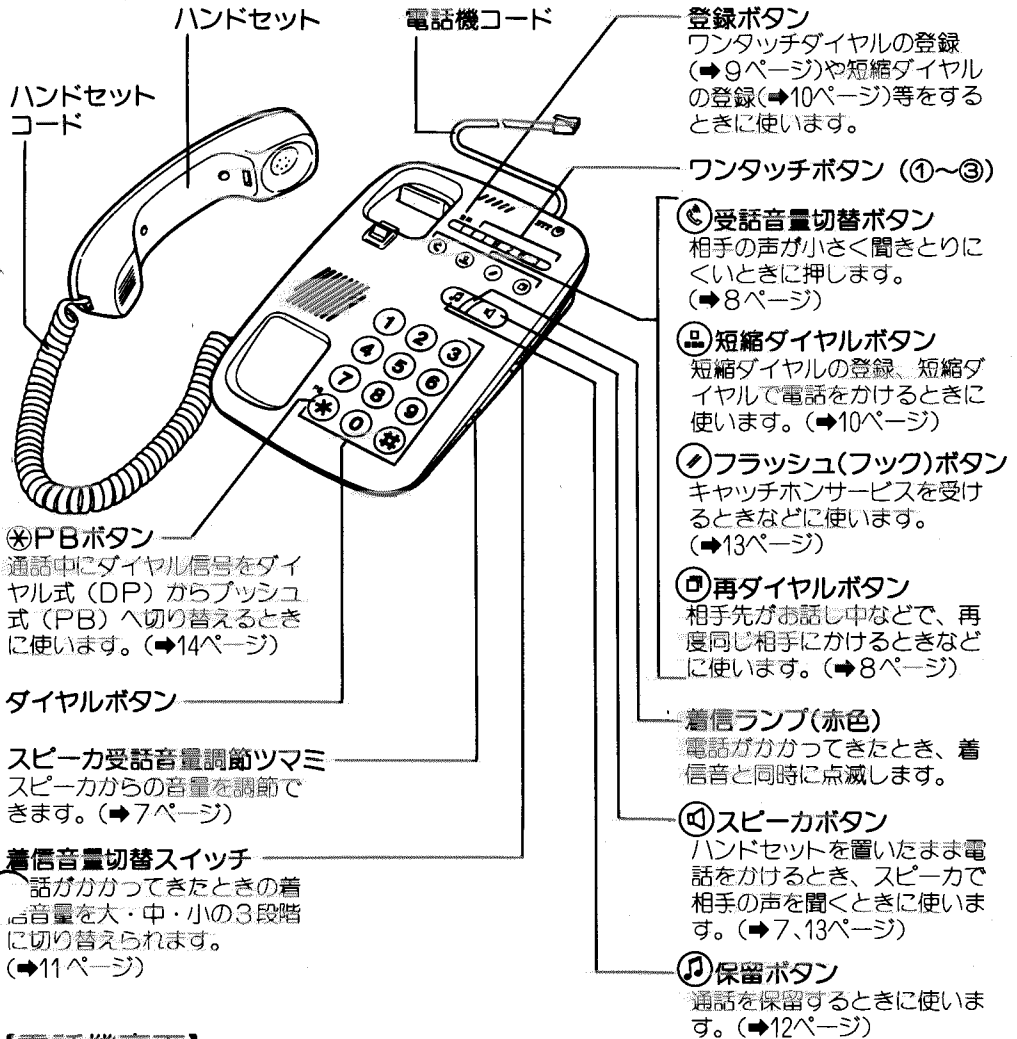
設置場所のご注意

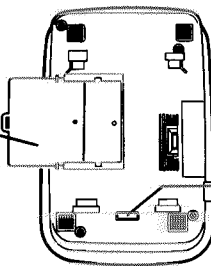
●変形や変色、故障、誤動作の原因となりますので次のような所に設置しないでください。

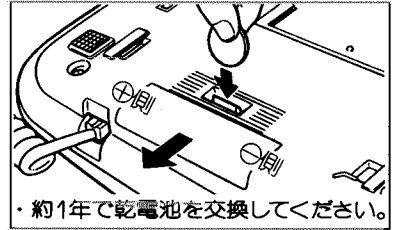
●発熱器具の近くや直射日光のあたる場所などいちじるしく温度が上がる場所や屋外。
●水や薬品などのかかる恐れのある場所。
●ちりやホコリ、鉄粉、有毒ガスなどが発生する場所。
●製氷倉庫など特に温度が下がる場所。
●テレビ、ステレオ、電気こたつ、電子レンジなどの家庭電化製品のそばや、磁気・電波を発生する場所。

日頃のお手入れ

●アルコール、ベンジン等でふかないで

●汚れがひどいときは、うすめた中性洗剤をつけた布を固くしぼって拭き、もう一度カラ拭きしてください。
●洗剤をスプレーなどで直接かけることは避けてください。また、アルコール、ベンジン、シンナーなどの薬品は使わないでください。変色や故障の原因となります。
●お手入れの際は、誤ってボタンを押さないようにご注意ください。

各部のなまえとはたらき

電池の取りつけと交換

取りつけかた

●裏面の電池ぶたをコインのようなもので押して開け、付属の乾電池２本を取りつけます。

●極性⊕⊖を間違えないように注意してください。

・約1年で乾電池を交換してください。

交換について

●乾電池は消耗品ですので、１年に１度は交換してください。乾電池が消耗しますと、ハンドセットを上げたとき「ピッ、ピッ」という音が出ます。

●交換するときは、２本とも同じ種類の新しい乾電池を入れてください。
　　使用する乾電池………市販の単４乾電池　２本

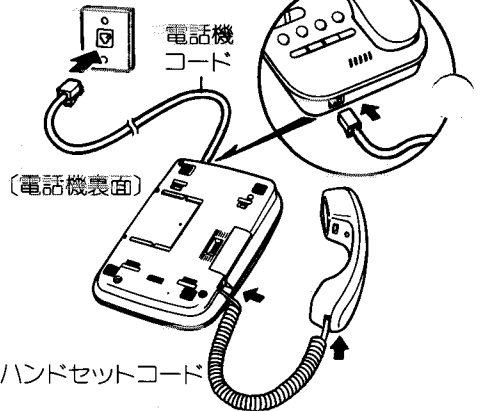
●使用済電池につきましては、他のゴミと分別する等、適正廃棄処理されるようお願いします。

ご注意

●乾電池を交換するときに、ダイヤルボタンや機能ボタンを押しますと、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤルの内容が消えることがありますのでご注意ください。
●電話機コードは接続したままで交換できます。
●乾電池を入れなかったり、消耗した乾電池をそのままで使用しているときは、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤルの登録、短縮ダイヤルの登録、ブランチベル(親子電話呼出)ができなくなります。

接続のしかた

ハンドセットコードの接続

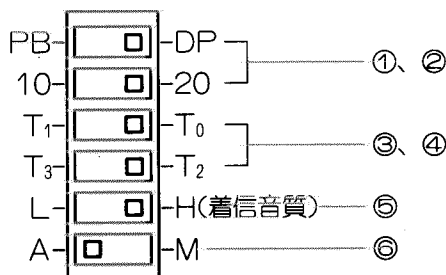
ハンドセットを図のように接続してください。
ハンドセットコードを電話機本体の左側面に差し込み、反対側をハンドセットへ差し込みます。

電話機の接続

電話機コードを図のように接続してください。
電話機コードを電話機本体に差し込み、反対側を電話機用ローゼットへ差し込みます。

●取りつけ後は、必ずハンドセットを上げて「ツー」という発信音を確認してください。
●電話回線のコンセントがモジュラ式でない場合は、工事が必要です。最寄りのＮＴＴ窓口へご相談ください。

スイッチを設定してください

いろいろな機能を設定するためのスイッチが、電話機本体裏面についています。お客様のご使用状態やご希望に合わせて切り替えてください。
スイッチを切り替えるときは、ようじのようなものをお使いください。(金属の使用は避けてください。)

●最初は次のようになっています。
(電話機本体裏面)

① DP/PB切替スイッチ
② 20PPS/10PPS切替スイッチ
①と②は、ご利用の電話回線に必ず合わせてください。

プッシュホン回線	速いダイヤル式(20PPS)	遅いダイヤル式(10PPS)
PB DP 10 20	PB DP 10 20	PB DP 10 20

電話回線の種類が不明の場合は最寄りのNTT窓口へお問い合わせください。

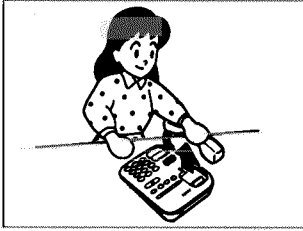
③④ ブランチベル(親子電話呼出)番号の設定スイッチ
ブランチベル(親子電話呼出)機能付電話機をブランチ式に接続(3台まで)し、ブランチベル(親子電話呼出)を行うときに設定します。(➡15ページ)
各電話機に1～3のブランチベル(親子電話呼出)番号を設定します。

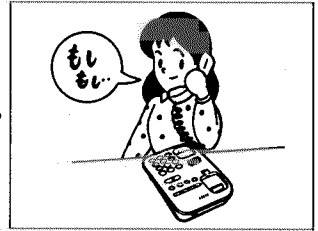
番号1に設定するとき	番号2に設定するとき	番号3に設定するとき	この機能を使わないとき
T_1 T_0 T_3 T_2	T_1 T_0 T_3 T_2	T_1 T_0 T_3 T_2	T_1 T_0 T_3 T_2

⑤ 着信音質切替スイッチ
電話がかかってきたときの着信音(プルプル……)の音質を変えることができます。お好みに合わせて切り替えてください。(➡11ページ)

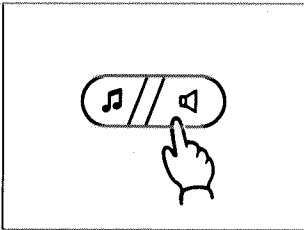
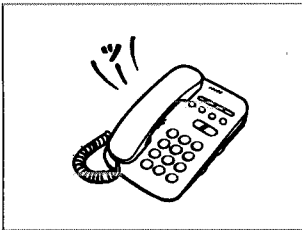
⑥ パッド切替スイッチ
普通のご家庭でご利用の場合には、切り替える必要はありません。構内交換機(PBX)の端末として使用する場合はM側にしてください。(➡17ページ)

電話をかけるとき

ハンドセットをとってかける

①ハンドセットを上げます。

②"ツー"という発信音を聞いてから、相手の電話番号をダイヤルします。

③相手を呼び出している音が聞こえます。
相手が出ましたら、お話しください。

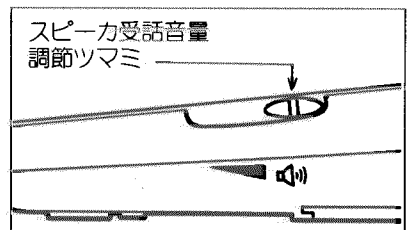
ハンドセットをとらずにかける(オンフックダイヤル)

ハンドセットを置いたままでダイヤルすることができます。

①スピーカボタンを押します。

②"ツー"という発信音を聞いてから、相手の電話番号をダイヤルします。

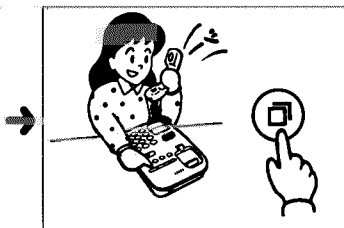
③相手が出ましたら、ハンドセットをとってお話しください。

メモ
- 相手が出ない場合は、スピーカボタンを押すと電話が切れます。
- 天気予報、時報などを聞くときは、ハンドセットをとらないでそのまま聞くことができます。(スピーカ受話)

スピーカの音量を調節する

電話機本体の右側面にあるスピーカ受話音量調節ツマミで音の大きさを変えることができます。

再度同じ相手にかけ直す(再ダイヤル)

相手がお話し中などでもう一度かけ直すときに便利です。

①ハンドセットを上げます。

②"ツー"という発信音を聞いてから、再ダイヤルボタンを押します。

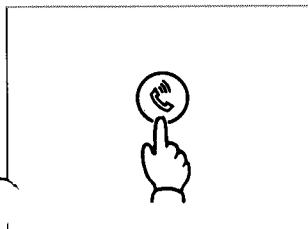
③相手が出ましたら、お話しください。

メモ

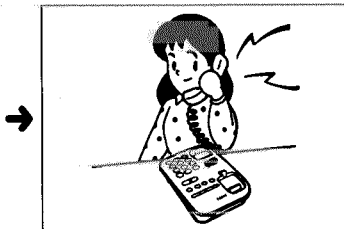
●オンフックダイヤルでも再ダイヤルすることができます。
●再ダイヤル機能は電話機ごとの機能です。

ご注意

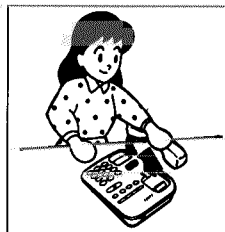
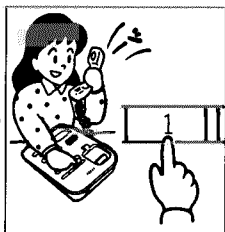
●ダイヤルした番号が33桁以上のときは再ダイヤルできません。

相手の声が小さく聞きとりにくいとき

①お話し中に受話音量切替ボタンを1回押します。

②相手の声が大きく聞こえます。

メモ

●もう一度押すか、電話を切ると元の音量に戻ります。

電話をかけるとき

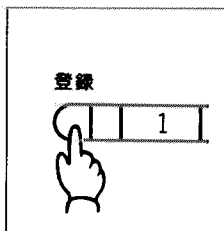
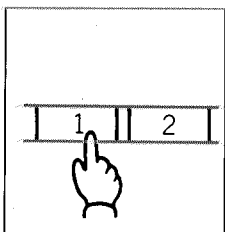
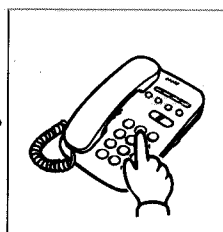
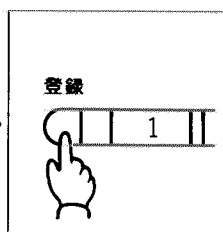
ワンタッチダイヤルでかける

①ハンドセットを上げます。

②"ツー"という発信音を聞いてから、あらかじめ登録してあるワンタッチボタンを押します。

③相手が出ましたら、お話しください。

メモ

- 登録していないワンタッチボタンを押すと"ブー"という警告音が出ます。
- オンフックダイヤルでもワンタッチダイヤルをすることができます。

ワンタッチダイヤルの登録

ワンタッチダイヤルの登録はハンドセットを置いたまま行います。
登録できる電話番号は3ヵ所までです。(ワンタッチボタン1～3)

①登録ボタンを押します。

②登録させるワンタッチボタンを押します。

③登録したい相手の電話番号をダイヤルします。

④登録ボタンを押します。

変更や取り消しをする

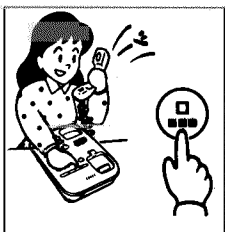
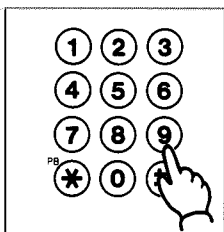
- 変更は同じ操作で他の電話番号を登録してください。(前に登録した番号は消えます。)
- 取り消しは、登録ボタン➡ワンタッチボタン➡⊘フラッシュボタン➡登録ボタンの順に操作してください。

メモ

- 相手の電話番号は最大32桁まで登録できます。
- 間違えたときは、ハンドセットを1回上げて元に戻し、最初からやり直してください。
- 登録時に再ダイヤルボタンを押すと、約3秒間のポーズを入れることができます。(ポーズも登録の一桁とかぞえます。)

- お手入れの際には登録ボタンを押さないようにご注意ください。

短縮ダイヤルでかける

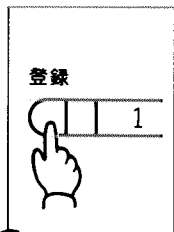
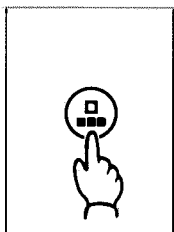
①ハンドセットを上げます。

②"ツー"という発信音を聞いてから、短縮ダイヤルボタンを押します。

③あらかじめ登録してある短縮番号（0～9）をダイヤルします。

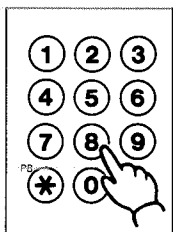
④相手が出ましたらお話しください。

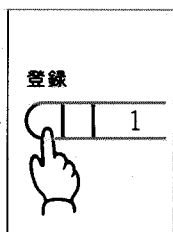
メモ

- 登録していない短縮番号を押すと"ブー"という警告音が出ます。
- オンフックダイヤルでも短縮ダイヤルをすることができます。

短縮ダイヤルの登録

短縮ダイヤルの登録はハンドセットを置いたまま行います。
登録できる電話番号は10ヵ所までです。（短縮番号0～9）

①登録ボタンを押します。

②短縮ダイヤルボタンを押します。

③登録させる短縮番号を押します。

④登録したい相手の電話番号をダイヤルします。

⑤登録ボタンを押します。

変更や取り消しをする

- 変更は同じ操作で他の電話番号を登録してください。（前に登録した番号は消えます。）
- 取り消しは、登録ボタン➜短縮ダイヤルボタン➜短縮番号➜フラッシュボタン➜登録ボタンの順に操作してください。

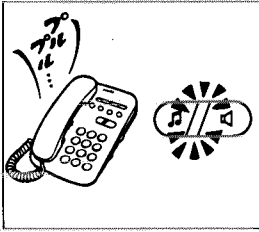
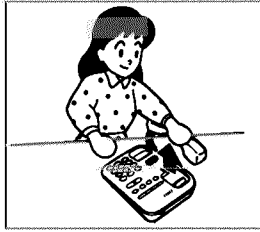
メモ

- 相手の電話番号は最大32桁まで登録できます。
- 間違えたときは、ハンドセットを1回上げて元に戻し、最初からやり直してください。
- 登録時に再ダイヤルボタンを押すと、約3秒間のポーズを入れることができます。（ポーズも登録の一桁とかぞえます。）

ご注意

- お手入れの際には登録ボタンを押さないようにご注意ください。

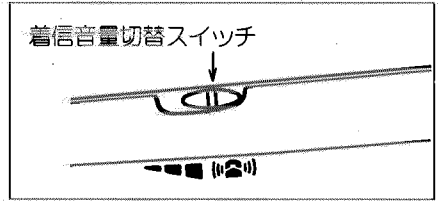
電話がかかってきたとき

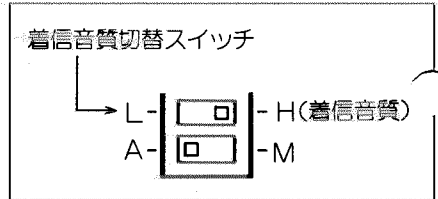
応答する

①着信ランプが点滅し、
着信音が鳴ります。

②ハンドセットを上げて
お話しください。

メモ
●応答時にハンドセットを上げると
着信ランプは消えます。

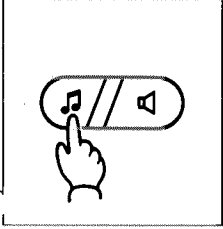
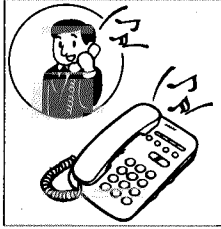
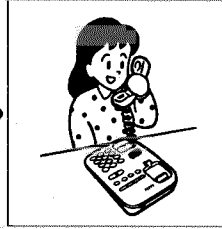
着信音の音量・音質をかえる

着信音量を変える

電話機本体の右側面にある着信音量切替スイッチでお好みの音量（大・中・小）に切り替えてお使いください。

着信音質を変える

電話機本体の裏面にある着信音質切替スイッチにより2種類の音質を選ぶことができます。お好みに合わせて切り替えてください。

便利な使いかた

電話を保留する（お待たせメロディ）

お待たせメロディは「レット・イット・ビー」が流れます。

①電話でお話し中に保留ボタンを押し、ハンドセットを置きます。

②通話は保留になり、相手にはお待たせメロディが流れ、自分のスピーカからも聞こえます。

③ハンドセットを上げれば、保留が解除されて再びお話しできます。

●ハンドセットを強く置くと、保留が解除されるおそれがあります。

メモ

●スピーカから聞こえるお待たせメロディの大きさは、スピーカ受話音量調節ツマミで調節できます。（➡7ページ）
●ハンドセットを上げたまま保留しているときは、もう１回保留ボタンを押すと再びお話しできます。

自動保留解除について

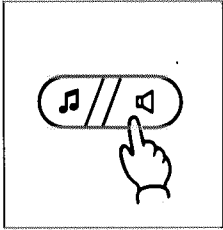
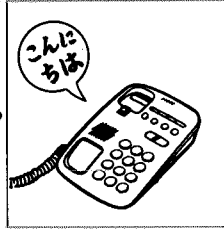
同じ回線で電話機が２～３台接続されている場合、ハウディ・クローバーホンＳⅡで通話を保留してハンドセットを置いたあと、他の電話機のハンドセットを取るだけで保留は解除され、相手とお話しができます。

ご注意

●電話機の種類や取りつけ状態により、保留が自動解除されないことがあります。
●ハンドセットを所定の位置に置かないと自動保留解除はできません。

便利な使いかた

お話し中に相手の声をスピーカで聞く（ハンドセット拡声）

相手の声をみんなで聞きながらお話しができます。

①電話でお話し中にスピーカボタンを押します。

②スピーカからも相手の声が聞こえます。

③お話しはハンドセットでします。

メモ

- スピーカで相手の声を聞くのをやめたいときは、もう１回スピーカボタンを押せばスピーカからの相手の声はとまります。
- 相手のお話しが終わるのを待ってから話し始めると、相手にこちらの話しがとぎれません。

ご注意

次のような場合、スピーカからの音がとぎれることがあります。

- 相手のお話しが終わらないうちにこちらから話しかけたとき。
- 相手と同時にお話しを始めたとき。
- 周囲の騒音が大きい所。
- ハンドセットとスピーカを近づけたとき。

⊘フラッシュ（フック）ボタンの使いかた

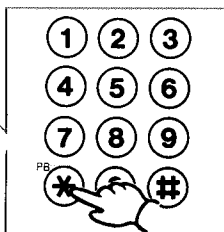
キャッチホンサービスを受ける

- 電話でお話し中にキャッチホンの呼出音が聞こえたときは、⊘フラッシュ(フック)ボタンを１回押すと、もう一方の相手に切り替わります。
- もう１回押すと、元の相手とのお話しにもどります。

メモ

- キャッチホンサービスはＮＴＴ窓口へ申し込むだけでご利用になれます。料金等の詳細は最寄りのＮＴＴ窓口へお問い合わせください。

ダイヤル回線からプッシュ信号を送る

ダイヤル回線でご使用の場合でも、プッシュホンサービス（航空券の予約、クレジット通話サービス、ポケットベルサービス、銀行ＡＮＳＥＲ照会案内サービス、他の電話機へのリモコン操作等）を利用できます。

①通話中に、＊ボタンを押します。

→

②ダイヤルしますとプッシュ信号が送出されます。

メモ

●ご利用後、電話を切るとダイヤル式に戻ります。

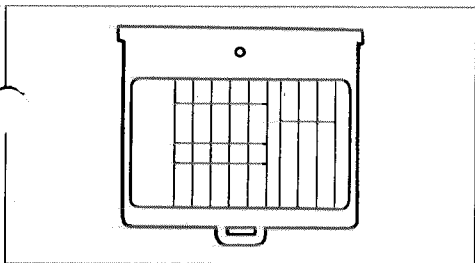
ご注意

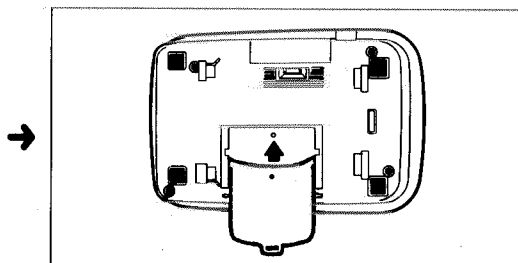
●ＪＲ座席予約サービスのようにサービスセンターを呼び出すために「＃９５００」といった特番を利用するサービスはご利用できません。

短縮ダイヤルシール、短縮ダイヤルカバーの使いかた

添付の短縮ダイヤルシールには、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録した相手先の名前を記入してお使いください。

取りつけかた

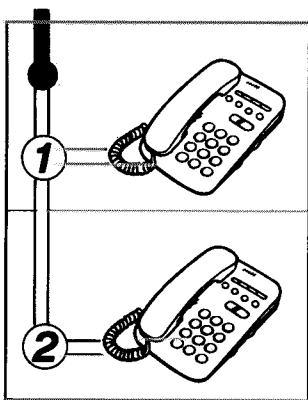
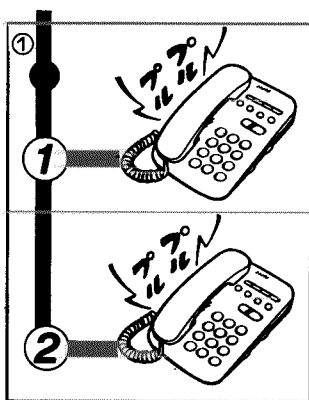
短縮ダイヤルカバーに短縮ダイヤルシールを貼り、電話機本体に取りつけ、必要なときに引き出してお使いください。

①短縮ダイヤルカバーに短縮ダイヤルシールを貼りつけます。

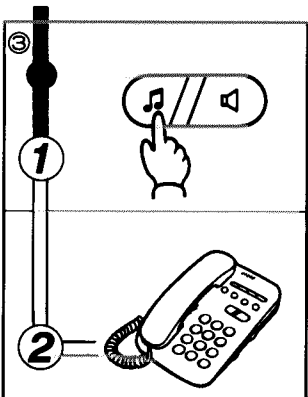
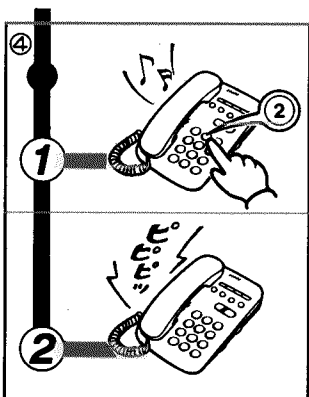
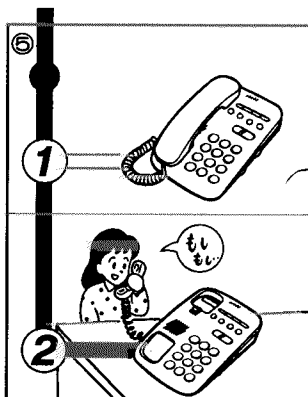
→

②電話機裏面の溝に短縮ダイヤルカバーをたわませながら差し込みます。

便利な使いかた

ブランチベル(親子電話呼出)を使う

ハウディ・クローバーホンSⅢどうしを親子電話(ブランチ接続)でお使いの場合には、それぞれの電話機を「ピピピッ、ピピピッ、ピピピッ」という呼出音で呼び出すことができます。ただし、この機能を利用するときには、あらかじめブランチベル番号の設定が必要です。(➡6ページ)

【使用例】

ブランチベル番号をそれぞれ①と②に設定しておきます。

電話がかかってくるとブランチ接続してあるすべての電話機の着信音が鳴ります。

ハンドセットを上げると相手とお話しできます。

お話し中に保留ボタンを押します。(お待たせメロディが流れます。)

ハンドセットを置いてから、転送する電話機のブランチベル番号②を押します。転送先の電話に「ピピピッ、ピピピッ、ピピピッ」という呼出音が鳴ります。自分の電話機からは、「お待たせメロディ」と確認音が聞こえます。

呼び出された転送先の人がハンドセットを上げると「お待たせメロディ」がとまり、相手とお話しできます。呼出後、約1分たっても転送先の人が出ないときは、再度呼び出すか、ハンドセットを取って不在を相手にお伝えください。

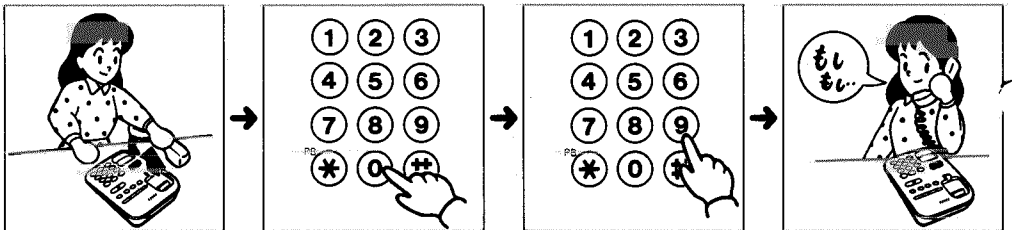
メモ

●ハウディ・クローバーホンSⅢは１本の回線に３台まで接続することができます。
●ブランチベル番号は機能設定スイッチで①〜③まで設定します。(➡6ページ)
●この機能はハウディ・クローバーホンSⅢ以外にも、ハウディ・セレクトSⅢ、ハウディ・メモール10-Ⅱ等でもご利用になれます。電話機の種類などの詳しいことは最寄りのＮＴＴ窓口へお問い合わせください。
●この機能を２台だけで使うときは、ブランチベル番号を両方①に設定しておくと、どちらから呼ぶときも①で呼び出しができ便利です。

ご注意

●ハンドセットを上げたままブランチベル(親子電話呼出)を行ったときに転送先の人が応答すると、３人でのお話しとなり、こちらの声が相手にも聞こえますのでご注意ください。
●１本の電話回線に２台以上の電話機等が接続されている場合には、ダイヤルするときに、もう一方の電話機のベルが鳴ることがありますが故障ではありません。
(このとき、ハウディ・クローバーホンＳⅢの機能を十分に発揮できないことがあります。)

さらに便利な使いかた

別売りのハウディ・ステーションＦを接続すると、ブランチベルの機能をさらに便利に発展させてご利用いただくことができます。

●ハウディ・クローバーホンSⅢ／ハウディ・セレクトSⅢ／ハウディ・メモール10-Ⅱ等を４台までとドアホンなどを接続でき、次の様な機能をご利用になれます。

- ●それぞれの電話機間での個別呼出や一斉呼出
- ●外からの電話の転送
- ●個別呼出および一斉呼出時のスピーカからの音声呼出
- ●ドアホンからのチャイム音呼出による、来客の方とのお話し

●これらの機能をお使いいただくときには、電話機のモード設定が必要な場合があります。
●ハウディ・ステーションＦのご購入・設置並びに電話機のモード設定など、詳しくは最寄りのＮＴＴ窓口へお問い合わせください。
また、これらの機能をご利用になるときは、ハウディ・ステーションＦの取扱説明書をよくお読みください。

構内交換機(PBX)の端末として使用する

構内交換機(PBX)の端末として使用するときは、電話機本体裏面にあるパッド切替スイッチをM側にしてください。(➡6ページ)

内線から外線にかけるとき

●構内交換機(PBX)の内線から外線にかけるときは、外線の発信音"ツー"を確認してください。確認せずに連続して押すと、誤ダイヤルの原因となります。

①ハンドセットを上げ、内線の発信音を確認します。

➜

②0(外線発信ダイヤル番号)を押し、"ツー"という外線の発信音を確認します。

➜

③相手の電話番号をダイヤルします。

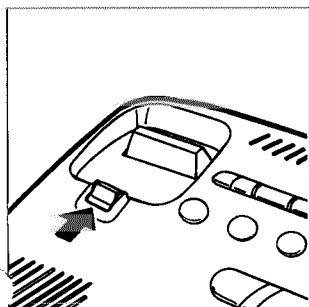
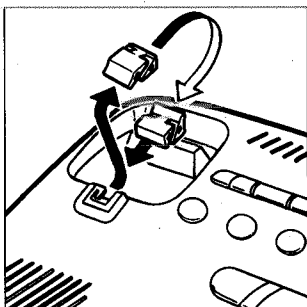
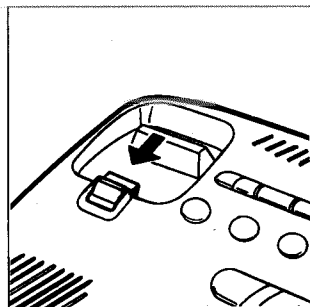
➜

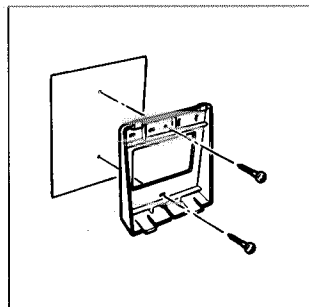
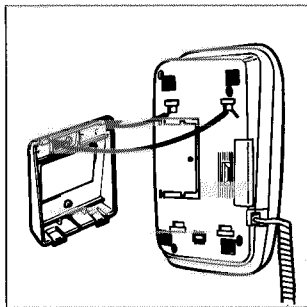
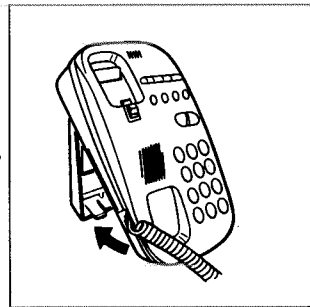
④相手を呼び出している音が聞こえます。相手が出ましたらお話しください。

ご注意

●②で押す0は、構内交換機(PBX)の外線発信ダイヤル番号ですので、設置する構内交換機(PBX)によって別の番号となる場合があります。
●外線への再ダイヤルは、誤接続になることがあります。
●設置する構内交換機(PBX)によっては、ブランチベル(親子電話呼出)機能を十分に発揮できないことがあります。

壁に掛けて使う

1．電話機の「ハンドセット受け」を逆向きにします。

①ハンドセット受けを指で前方に押して外します。

②ハンドセット受けを逆向きに取りつけます。

③しっかりと押し込んでください。

2．「壁掛け用スペーサー」を取りつけ、電話機をはめ込みます。

①壁掛け用スペーサーを付属のねじ２本で壁に取りつけます。

②電話機本体裏面の上側の穴に壁掛け用スペーサーのツメを差し込みます。

③電話機本体裏面の下側の穴に壁掛け用スペーサーのツメをしっかりと差し込みます。

取りはずす

●取りはずしは、電話機下側の壁掛け用スペーサーのツメを先にはずしてください。
●卓上用にもどすときは、「ハンドセット受け」を元の状態にもどしてください。

ご注意

●薄いベニヤ板や柔らかい壁などには取りつけないでください。重みでねじが抜け、電話機が落下しますと「けが」や「破損」の原因になります。
●ご使用の前にスペーサーの４つのツメが電話機本体の穴にしっかり入っていることを確認してください。

仕　様

寸　　法	約143(幅)×219(奥行)×83(高さ)mm
重　　量	約0.7kg
直流抵抗	通話時　約290Ω
絶縁抵抗	待機時　約3MΩ

保守サービスのご案内

●保証について

保証期間(1年間)中の故障につきましては無償で修理をいたしますので、「保証書」は大切に保管してください。(詳しくは「保証書」の無料修理規定をごらんください。)

●保守サービスについて

保証期間後においても、引き続き安心してご利用いただける「定額保守サービス」と、故障修理のつど料金をいただく「実費保守サービス」があります。

NTTでは、安心して電話機をご利用いただける定額保守サービスをお勧めしております。

保守サービスの種類は

定額保守サービス	●毎月一定の料金をお支払いいただき、故障時にはNTTが無料で修理を行うサービスです。
実費保守サービス	●修理に要した費用をいただきます。 (修理費として、お客さま宅へおうかがいするための費用及び修理に要する技術的費用・部品代をいただきます。) (故障内容によっては、高額になる場合もありますのでご承知願います。) ●NTT窓口まで電話機をお持ちいただいた場合は、お客さま宅へおうかがいするための費用は不要です。

●故障の場合は……113番へご連絡ください。

●その他……定額保守サービス料金については、最寄りのNTT窓口へお問い合わせください。

●補修用部品の保有期間について

この商品の補修用性能部品(商品の性能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後最低7年間保有しています。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、最寄りのNTT窓口にお問い合わせください。

この電話機は、第二種情報装置(住宅地域またはその隣接した地域において使用される情報装置)で住宅地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置など電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に適合しております。しかし、本電話機をラジオやテレビに近接して使用すると受信障害の原因となることがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

使い方等でご不明の点がございましたら、最寄りのNTT窓口等へお気軽にご相談ください。

日本電信電話株式会社
〒100 東京都千代田区内幸町1-1-6

本1166-2(92.8)
クローバーホンS3TELトリセツ